

# 中大用語を解説する



▲たった一人で「中央辞」編集に取り組んだ乙部桃子さん



# 「中央辞」

## ユニークさが評判です！

### “辞書ヲタク”の卒業生、 乙部桃子さん(文4)が編集・制作

「ちゅうおうじ」を知っていますか。可愛らしいマスコットキャラクターではありません。「思わずクスッと笑ってしまう」「4年間、通っていて気づかなかったことも…」などと、ひそかに話題になっている「中央辞」。“The freshman’s guide to Chuo University”とサブタイトルを付けたくなるユニークさです。

#### 中大生なら 知っておかないと!? 200超の語句を掲載

注目を集めている辞書サイトは、中央大学受験生ナビ「Connect Web」内にある。トップページに「中央大学の辞書ヲタクが制作中の、大学用語をまとめた辞典」と記されていた。これから中大を目指すという受験生、入学が決まった新入生、そして現役生らを主な対象に編集された。語句をいくつか引用すると一。

えっけん【謁見】(名・自スル)

チュー王子に会うこと。「今日、ペデ下で一できるらしいよ」

きむらくん【キムらくん】(名) ヒルトップ4階にある、さぬきうどん店「和おん」の看板メニュー。うどんの上にキムチ、豚肉、玉ねぎ、たまご、食べるラー油などが乗っている。

▶コロナによる和おん営業停止時には、「キムらくん」を熱望する声に応え、同1階のレストランコープが「キムラさん」という名称で豚キムチ温玉うどんを販売したことも。

きんぎょばち【金魚鉢】(名) 文学

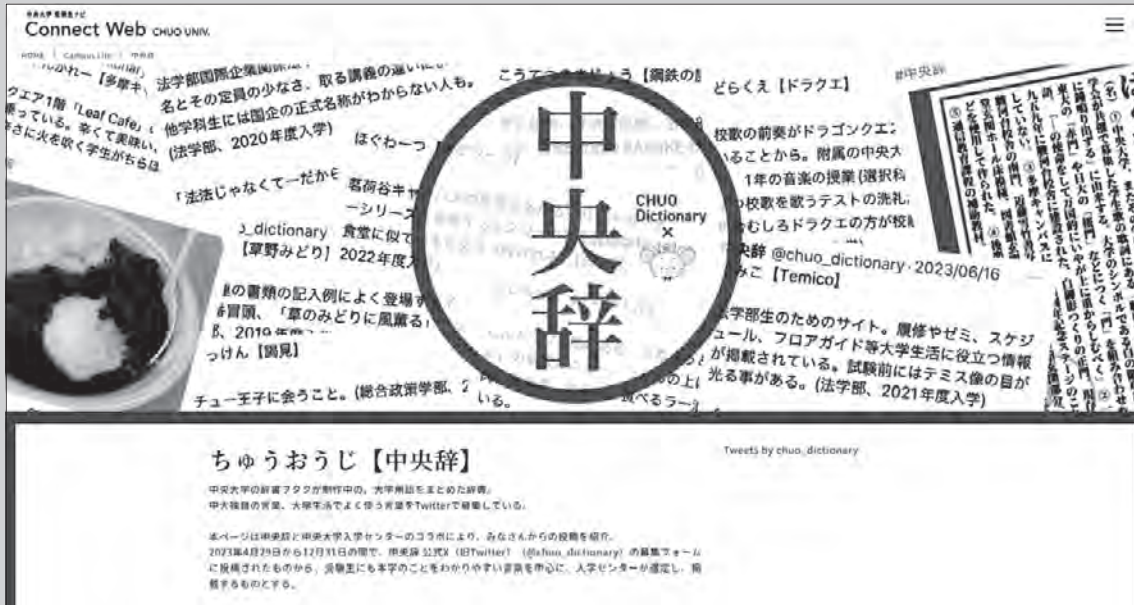
部棟にある、ガラスで覆われたスペース。1階の入口付近と、3階の文学部事務室横にあり、学生がいう場合には後者を指すことが多い。

「一で勉強してくる～」  
▶コロナ以前によく使われていたことば。

さくらひろば【さくら広場・桜広場】  
(名) 多摩キャンパスの白門前にある花見スポット。約300本のソメイヨシノが植えられている。春になると花見を楽しむ学生の姿が見られる。

▶「さくら広場」「桜広場」両方の表記がある。管轄の違いか。





◀中央大学受験生ナビ Connect Webで公開されている「中央辞」



▲「中央辞」のXはこちら

でんでん(名) 理工学部電気電子情報通信工学科の略称。Twitterなどのプロフィールではカタツムリの絵文字で表記されることもある。

編集・制作にあたったのは、文学部人文社会学科国文学専攻4年の乙部桃子さん。掲載されている200

以上の語句は、多くがウィットを利かせた語釈や用例付き。紹介しきれないので詳しくは自身で確認してほしいが、品詞や自動詞・他動詞の別まで丁寧に記述されている。言葉の意味を解き明かす語釈の文言に試行錯誤し、興味深く、面白く読めるよう「参考」欄にも力を注いだ。

乙部さんは、200冊以上の辞書を

所有し、中大のゼミでは平安時代の古辞書の研究をするほどの“辞書好き”である。それが高じて、たった一人で「中央辞」編集・制作に取り組んだ。そもそものきっかけは、大学1年の社会言語学の授業で配布されたキャンパス言葉を一覧にした辞書(PDF)を読んだことだという。



## “アイドル推し”と同じく “辞書推し”

アイデアを温め、1年前の2023年4月にツイッター（現X）で掲載する語句を募集したところ、一晩で80件の反響があり、最終的に400件近く集まった。当初はWebでの公開や自主製作の印刷物として発表しようと考えていたが、中央大学入学センターから「受験生ナビで公開」の打

診があり応じた。

中央辞というタイトルを公募で決め、同年7月14日に受験生・新入生向け特設ホームページとして開設。昨夏のオープンキャンパスでは小判の印刷物「ミニ中央辞」1000部を配布した。「中央辞が面白いので中大を目指す」と言ってくれた高校生や、SNS上で「それは中央辞に書いてあるよ」と教えているコメントを見たといい、反響は素直にうれしかっ

たそうだ。

ところで、辞書は一般的に言葉などを調べるツールであり、辞書そのものが好きという心理はなかなか理解されにくいのではないかと。なぜ、そこまで好きなのかと聞くと、「私は純粋に言葉に興味があるんです。小説を読んでも、物語の面白さよりも言葉の使い方、表現の仕方に興味がありました。それに気づいたんです」と理由を説明した。

アイドルに夢中になるように辞書が好き、“辞書推し”なのだという。だからこそ、中央辞にある「桜広場」「さくら広場」のような表記の揺らぎは「たまらない」と興奮しながら教えてくれた。

卒業後は出版業界に進む。仕事として辞書と向き合うことになる。良い辞書とは何かと尋ねると、「特に説明がなくても使える、導線がはっきりした辞書」ときっぱり。「ジャンルにこだわらず、ユーザーが満足する辞書、使いやすい、よく手になじむ辞書を作りたい」と話している。



### 乙部桃子さん

おとべ・ももこ。岩手・盛岡三高卒、文学部4年。自他ともに認める“辞書ヲタク”。2023年9月にはX仲間に声をかけ、インカレサークル「辞書尚友」を作った。現在、代表を務めている。

# 「学んだ協調性」「視野を広げる」

## 留学生らとの異文化交流の拠点 卒業する「Gスクエア」スタッフの学生3人

多摩キャンパスの「Gスクエア」は、留学情報や国際交流、多様な異文化を知る機会を提供する中央大学の異文化交流の拠点。学生約10人が主体となって日々の活動やイベントを企画・運営しています。この春に卒業を迎えた運営スタッフの4年生3人に、活動の思い出や、卒業への思い、卒業後の抱負などを寄稿してもらいました。

### 常に成長し続け、駆け抜けた3年間

#### 阿久澤駿さん(商学部4年)

約3年間、国籍を問わずに多くの人と関わっていく中で、さまざまな文化や価値観を学べたことは大きな収穫でした。さらにリーダーとしてもチーム全体を引っ張り続けることができました。一番印象に残ったG-squareのイベントは、対面で行った留学生の来校を祝う“welcome party”です。50人を超える学生が集まり、イベント後は感謝の言葉を多くかけてくれ、やりがいを感じました。

どのようなイベントにすれば参加者に楽しんでもらえるかをメンバーと話し合い、一から案を考え、広報・運営まで一貫して行えたことは自信にもつながり、大いに成長することができました。会社に入社してもチームで協力して何かのプロジェクトに取り組む機会は大いにあると考えているの

で、そういった際にこのG-squareで学んだ協調性やリーダーシップなど自分の持ち味を出していきたいです。



Thank you very much for coming G-square this year! Whether you have been to G-square before or not, G-square is a place where you can interact internationally and make many friends. I will be graduating G-square in March, but we are always looking forward to welcoming you. Please visit us often!

#### ☆G-square (Gスクエア)

多摩キャンパスのヒルトップ2階にある中央大学の異文化交流拠点。日々の活動、イベントは学生スタッフが主体となって企画・運営し、留学生との交流イベントや異文化理解のためのセミナー、ランゲージ・ラボ(学生による外国語自主学習グループ)などを随時開催する。白門祭ではグローバル・カフェを運営している。現在の学生スタッフは、日本人と留学生を合わせて約10人。2023年度で開設10周年を迎えた。

# 「学年や国境を越えて新たな経験」

## G-Squareで培った力で世界へ

### イ スニアさん(文学部4年=韓国からの留学生)

こんにちは！ G-Squareスタッフのイ スニアです。韓国からの留学生でG-Squareには1年生の後半から所属していました。コロナ禍の影響で大変だった時期もありましたが、G-Squareに来てくれる学生や仲間たちのおかげで乗り越えられました！ 今までたくさんのイベントを開催してきましたが、一番の思い出は今の友達に会えた“welcome Party 2023”ではないかと思います。

異なる言語、価値観、国籍を持った人々が集まるG-Squareを通じて自分も狭かった視野をさらに広げることができました。さまざまな学生から小さな影響を受けながら、今の自分になったのではないかと思います。G-Square

で培ったこの力を通じて、今後世界を舞台に活躍することに生かしたいと思います！ 今までありがとうございました。



International exchange has more value and fun than you can imagine! If you are interested in international exchange, please come next to the bakery. G-square is always open.

## これからも「新発見」の人生目指す

### 高城采希さん(総合政策学部4年)

大学2年次、海外と関わることがしたいという思いでGスクエアのスタッフに応募しました。「Gスク」とは、学部や学年や国境を越え、新たな経験がしたいという熱心な学生の集まる場であり、毎日、「新発見」できる環境でした。コロナの影響により、活動ができない期間もありましたが、多くの方のサポートにより、活気あふれる素晴らしい場所へと復活できたのではないかと思います。

Gスクでの経験は、「みんなありがとう！」という言葉で表現したいです。つまり、あらゆるバックグラウンドの人がいるからこそ、私自身も成長できたからです。何事も一歩踏み出すと「案外楽しいかも」ということがあふれていると思います。これからも「新発見」の人生を目指します。

I appreciate that if you have an interest in joining G2! You will definitely experience many amazing memories with us, making your life better and more adventurous.



2023年度後期のフランス語ランゲージ・ラボで。右から2人目がイ スニアさん、3人目が高城さん▲

「自分がどんなふうに輝ける人かを知る」

「好きなことを好きと言いつけられる環境に」

「柔軟に対応できる能力、アルバイトで身につける」

企業・行政機関に内定した女子学生3人がアドバイス



▲就活に関するさまざまな質問に答えた内定者の3人。(左から)経済学部の植松采音さん、文学部の吉田凧さん、経済学部の久留嶋彩さん

## 女性白門会、キャリアセンターが第29回WINGの会「女子学生応援セミナー」

これから就職活動に臨む女子学生の支援を目的とした第29回WINGの会「女子学生応援セミナー」が2023年11月25日、多摩キャンパス「FOREST GATEWAY CHUO」408教室を会場に、対面とオンラインで開催された。卒業生でつくる学会会の女性支部「女性白門会」が主催、キャリアセンターが共催した。

企業や行政機関に内定した4年生の女子学生3人がパネルディスカッションに参加し、就活を経験した本音を語りかけたほか、2004年法学部卒業生で三井住友信託銀行広告宣伝企画チーム・チーム長の吉原彩さんが「私らしいリーダーシップを考えよう」と題して講演し、参加者が熱心に耳を傾けた。

「今、知りたい就活のリアル!〜就活経験者が語る本音の60分」と題したパネルディスカッションでパネリストを務めたのは、外資系コンサルタント会社「デロイトトーマツコンサルティング」に内定した経済学部4年、久留嶋彩さん▽秋田書店に内定した

文学部4年、吉田凧さん▽東京都小平市役所に内定の経済学部4年、植松采音さん<sup>あやね</sup>の3人。寄せられた主な質問に次のように回答した。

**質問(以下Q) 就活の軸、大事にしていたことを教えてください**

**久留嶋さん** 一番大切にしていたのは自分が成長できるかどうか。「こういうスキルが身につく」「キャリアに磨きがかかる」といった観点です。企業はより自分をレベルアップさせるための一つのステージであるという感覚、そこで自分がどう輝けるか、どう

働けるかという点に重点を置いて就活をしていました。

**吉田さん** 先輩から仕事を始めたら趣味に時間を割けなくなると、よく聞いていたので、一番の趣味である漫画の編集をしたいというのが一番の軸でした。漫画の出版社か編集プロダクションだけを受けていました。自分が好きなことを好きと言いつづけられる環境にいたいと思ったからです。

**植松さん** AI (人工知能) の進展などで、仕事がなくなってしまっただけは自分の未来が危ない。公務員なら機械化は進んでも完全に職がなくなることはないと思いました。安定した職に就きたいという思いからです。

**Q** 企業・行政機関選択の際に、女性だから意識したこと、注意したことはありますか

**久留嶋さん** あまり意識しませんでした。男女の昇進スピードが同じじゃないと嫌だというのはありました。(内定先は) 性差の別なく、絶対評価でその人の能力というふうに見てくれる。評価のされ方という点は、注意深く企業を見ていたと思います。

**吉田さん** 漫画に関わる出版社だけを受けていたので、「女性だから」ということは考えていませんでした。毎年の(内定者の)女性対男性の比率が1対9だったり、高くても4対6だったりしたので、(女性には)すごく狭き門だなと感じていました。

**植松さん** 女性ならではの観点で選んだということはありませんでした。しかし、民間企業で受験したある業界は全国転勤が多かったので、転勤などを自分が受け入れ可能かどうか決めた上で選ぶのは大切だと思います。

### 「ESを3つ書けるくらい 活動的に過ごす」 「面接は誰よりも笑顔で」 「アナログ手帳を大事に」

**Q** 就活を始める前にやっておいた方がよいこと、役立ったことを教えてください

**久留嶋さん** 2点あります。1点目は活動的に動く。エントリーシート(ES)を3つ書けるくらい活動的に過ごすことが大事。私に置き換えると、2年生のときから長期インターンやビジネスコンテスト出場を経験し

ました。学業やサークル、アルバイトなど意欲的、自主的に活動できていたら、ESは書けると思う。もう1点は、「自分はこういうふうには輝ける人なんだろう」ということを今のうちから探した方がいい。会社はいろいろな人を求めている、欲しい人材は1種類ではない。自分はこういう強みをもっているかを明確に知っておいた方がいいと思います。

**吉田さん** とにかく学業に力を入れていました。私は文学部哲学専攻で古代ギリシャ語を初級・中級・上級と履修して、検定を受けたりもしました。(企業の)年配の面接担当の方々は哲学の話にすぐに興味、関心を持ってくれた。面接で面白いネタを取り入れるのに学業が力になりました。飲食店のアルバイトも「こんなユニークなお客さんがいた」といった話を紹介できました。

**植松さん** 学生生活の本分は学業ということをおぼろげに大切にしてきました。しっかり勉強した上で、アルバイトに力を入れました。高校3年から大学4年の7月末日まで働いていた飲食店はマニュアルがなく、その日その日に起きることに柔軟に対応



対面とオンラインで開催されたセミナー＝2023年11月25日▲



できる能力が身につきました。学生マネジャーという立場で、社会人の方もパートの方も一緒に働く中で、リーダーとしてどういう立ち回りをすればいいかということが身につきました。

### Q 就活で失敗したことはありましたか

**久留嶋さん** ある日の面接に10分遅刻してしまいました。フィリピンで（面接時間を）予約したら、時差でずれてしまい、人事の方から当日、電話がありました。面接前日には必ず時間をチェックしましょう。でも、めげなければ、どうにかなることもあります。

**吉田さん** 志望していた出版関係の会社から内定をもらえなかったとき、

いろいろな企業を受けてみたことがありました。ただ、（他の業界については）知らないことばかりで、軒並み残念な結果となり、また精神的にダメージを受けました。「これしかやりたくない」という職業があるなら、ほかに目を向けなくて頑張ったほうがいいと思いました。

**植松さん** 私は就活のスタートが遅くなったことです。



久留嶋さんは現在、週1～2回、多摩キャンパスのキャリアセンターで「キャリアアドバイザー」として後輩の就活相談に対応しているという。ディスカッションの結びで「適材適所でこそ人は輝ける。就活で自分の

活躍できる場をきちんと選べたら、（それぞれが）もっと輝ける。そういう意図で後輩たちをより適切な企業に導きたい」と呼びかけた。

吉田さんは「就活で一番重要だなと思ったことは笑顔でいること。私は面接で誰よりも笑顔でいるよう気を付けていた。すごく緊張するとは思っていたけれど、いつもより2、3センチ（口角を）上げて就活してほしい」と笑顔でメッセージを送り、植松さんも「就活ではスケジュール管理が大切で、私はアナログの手帳を大事にしていた。アプリより手帳を勧めます。先がわからず不安だと思いますが、自分を信じて、最後まであきらめずにやれば、絶対に何かがついてくる」と後輩にエールを送っていた。

## 第29回WINGの会 女子学生応援セミナー

〈日時〉 2023年11月25日14:00～16:50

〈会場〉 多摩キャンパス「FOREST GATEWAY CHUO」408教室

対面・オンラインで開催

【第1部】 中央大学卒業生による講演「私らしいリーダーシップを考えよう」

登壇者：三井住友信託銀行広告宣伝企画チーム・チーム長 吉原彩さん

〈略歴〉中大杉並高卒、中央大学法学部法律学科2004年卒、同年住友信託銀行（当時）入社。コンプライアンス管理、日本株式トレーディング、人事部採用担当、FDGS企画推進部チーム長を経て、2021年に個人企画部に異動。広告宣伝企画チームのチーム長として、企業広告や協賛施策の企画・検討などを担当している。

【第2部】 内定者パネルディスカッション「今、知りたい就活のリアル！～就活経験者が語る本音の60分」

質疑応答

◇パネリスト◇

経済学部4年

久留嶋彩さん

（デロイト・マツコンサルティング内定）



文学部4年

吉田凧さん

（秋田書店内定）



経済学部4年

植松采音さん

（東京都小平市役所内定）



〈主催〉 中央大学学会女性白門会

〈共催〉 中央大学キャリアセンター

## 「自分らしく働ける場所をつくる」

学生記者 高橋来佳 (文1)

今回、女子学生応援セミナーに参加して、「就活」とは「自分が生涯輝ける居場所を探すこと」だと感じた。

セミナー第1部では、三井住友信託銀行で活躍する法学部卒業生の吉原彩さんが大学で過ごした4年間と就活、仕事場におけるリーダーの存在について話してくださいました。

リーダーシップについて考えたとき、吉原さんはある2つのことが重要だという。それは ①世の中を知ること、②自身を高める努力をすることだ。自分が置かれている状況に満足することなく、視野を広くもち、意欲的に挑戦する。そして、仕事をする中で仲間が窮地に立たされたときは助ける。そうすることで自分や周りも楽しく仕事ができる環境を作り上げられると教えてくださいました。

また、「引き出す力」も大切だと思う。リーダーとして、まず相手の話を聞いて、

考えを“引き出し”、尊重してあげることがチーム力向上の秘訣だと気づいた。多種多様な考えを持つ人々と仕事をする中でそのような力を身につけていったからこそ、吉原さんには彼女の背中を追って成長する数多くの仲間がいるように感じた。

### 「自分が成長できるかどうか」「強みを生かせる仕事」を重視

第2部では、コロナ禍を乗り越え、無事内定が決まった4年生3人から具体的な就活経験談を聞いた。3人とも落ち着いた表情で、就活のことがまだわからない私にも、わかりやすく話をしてくださいましたことから、面接の練習を積み重ねてきた力が垣間見えたように思う。

話を伺う中で、経済学部4年の久留嶋彩さんが就活の軸としていた「自分が成長できるかどうか」がとても印象に残っている。企業で働くということは、そこで稼い

だお金で生きていかなければならない。安定した職を手に入れることだけではなく、企業は自分を高める1つのステージだと、久留嶋さんは考えている。就職先が決まれば、次にそこで何をすべきかを考え始めるような、久留嶋さんの先を見据えた姿勢、行動がさらなるキャリアアップに結び付くと感じた。

自分が今できることは何か。先輩たち3人は異なる分野に就職予定だが、「自分の強みを生かせる職場」を重視している点は同じだった。だからこそ1、2年生のうちにアルバイトやボランティア活動などに積極的に参加して、自分が好きなこと、興味を持てるものを見つけることが大事だと気づかされた。

そして、いざ就活を迎えたときに、「大学生活は将来のキャリアに生かせるような密度の濃いものだった」と胸を張っていえるような日々を過ごしていきたい。

## 私らしいリーダーシップのため 「世の中を知る」「自身を高める努力をする」

2004年法学部卒、三井住友信託銀行広告宣伝企画チーム・チーム長 吉原彩さん



法学部卒業生で三井住友信託銀行広告宣伝企画チーム・チーム長の吉原彩さんは講演で、さまざまなタイプの上司（リーダー）と一緒に仕事をしてきたと振り返った。

株式トレーダーとして資産運用を担当していた頃の上司は、「本当にピンチになったときに助けてくれ、絶対に部下を守る」という全幅の信頼を置ける人だった。人事部に在籍したときは、誰にでも自然体で話すことができ、会社の進むべき道を全員にうまく伝えられる「懐の深い人」が上司だった。人事部には堅いイメージがあったが、周囲と上手に協力することでチームワークの力を実感できたという。

入社15年目にFDCS企画推進部で初めてチーム長となり、現在も広告宣伝企画チーム長を務める。「私らしいリーダーシップ」を発揮するために、「世の中を知る」「自身を高める努力をする」ことを常に心がけている。周囲が楽しく活動できる場所を作るためだという。

質疑応答で、学生の「さまざまなタイプの上司に共通した点は何か」という問いかけに、「あの仕事、この仕事をやり遂

げた。何かをやり遂げたという点が共通している」と説明し、「達成感を持つということは学生時代からも重要だと思う」と語りかけた。

自身の就活を振り返り、「何より自立することが重要」「結婚したとしても働き続けたい。どんな状況でも、自分一人で自分を支えられることが大事」と考えていたという。大学1、2年で宅地建物取引士、ファイナンシャルプランナー（FP）の資格を取り、①女性が長く働ける会社であること②専門性を身につけられること③私らしく居られる場所であること—の3点を重視して就活に臨んだ。

企業研究を進める中で、当時のメガバンク一般職の平均年齢27歳に対し、信託銀行は38～39歳で、「10年の差」に気付いた。「たとえば子供を産んで復職して、会社に残ってほしいと言われてもらえる専門性、スペシャルな力を身につけられるのではないかと考えた」と考えた、志望先を信託銀行に絞った理由を説明した。